

コロナ禍に負けるな！ オンラインでの出前授業を実施！！ 「技術士を知ろう！ in 北海道科学大学」

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」(ミライ研)にて運営等を担当している「技術士を知ろう！」ですが、2020年度の活動第1弾は、2016年度から講演を行っている北海道科学大学にて実施しました。今回も青年技術士交流委員会(青技交)の連携・協力を得て、実施しています。

新型コロナウイルスの感染拡大抑止による日本技術士会での対面の講演会中止、大学での授業の一時中断等の影響もあり、ミライ研も従来のような活動はできていませんが、今回は大学側の協力もあり「オンライン」での“出前授業”を実施しました。

2. 実施概要

開催日時：2020.7.4(土)13:00～14:30

講義内容：技術士について

技術士の仕事内容と役割(講演2編)

土木全般の仕事紹介

対象者：北海道科学大学都市環境学科 計73名

1年生66名、2年生2名、3年生2名、他3名

参加幹事：小澤、木本(記)、仁田(ミライ研3名)

密山(青技交1名)

〈オンラインでの実施概要〉

北海道科学大学では、通常授業も「オンライン」で実施するシステムが構築されています。学校側でライセンス取得したzoomをベースにしたもので、学校内に講師側が発信する“スタジオ”のようなものが用意されており、学生側が自宅等からオンラインで参加する形となっていました。

今回は、それらの大学側のシステムをお借りして実施しており、誤操作による授業中断等を回避するため、午前中にリハーサルを実施し臨みました。



写真1 システム全景とリハーサルの様子



写真2 生徒たちの参加状況(写真を加工しています)

3. 技術士について

小澤代表より、技術士資格の説明として、技術士の役割、資格取得方法、持つことのメリット等を説明したほか、社会人になってから仕事をする上での資格取得の重要性等について説明を行いました。

対面と異なり、学生の反応がわかりにくい分、やりにくさもあったのですが、そこは百戦錬磨の小澤代表。画面越しながら直接学生に話しかけるよう、身振り手振りや目線も配りつつ、熱く講演してくれていました。

※システム上、プレゼン資料と講師の講演する姿の2画面が学生に表示されるようになっています。



写真3 冒頭の概説を行う小澤代表(手前は司会の筆者)



写真4 穏やかな語り口の仁田技術士

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事(仁田技術士)

具体的な仕事内容の紹介として、まずは(株)雪研スノーイーターズに勤務する仁田技術士から、関わってきた仕事の紹介をしました。前職での測量に関する仕事や、現職の雪に関する仕事、さらに、資格等を取得することで転職、現在の立場になっているという経歴も交えた説明で、就職後の就業イメージや資格の重要性等が伝わったように思います。

(2) 技術士の仕事(密山技術士)

続いて、北科大(旧道工大卒)OBで、ダイシン設計(株)に勤務する密山技術士から、コンサル(橋のメンテナンス)の仕事の講演を行いました。橋の補修設計に関し、マニュアルに無い、自身が経験した課題解決方法を紹介、専門用語も事例写真や図・表を基にした丁寧な説明を行いました。また最後にはOBならではの「ミライの技術者」に向けたメッセージを語り掛け、学生たちの視線を集めた(オンラインなので分かりませんが、笑)ように思います。

5. 土木の仕事全般の紹介

講演最後は、筆者より土木や建築の業界全般を対象に2人の講演で紹介しきれなかった様々な仕事を写真で紹介。北海道内の事例等を用いて様々な仕事があることを知ってもらおうと用意したのですが、まだ漠然としてしか自分たちの「ミライ」を意識できていない学生にとって、今後の就職等を真剣に考える機会にいただけたようです。



写真5 OBとして熱く語る密山技術士(青技交 幹事)

6. 質疑応答

学生からの質問に回答する質疑応答。「仕事のやりがいとは？」といった今後の就職活動に直結するような質問や実際の仕事内容に関する質問も多く寄せられました。

7. まとめ

学生からの感想には「技術士を取得したくなった」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。アンケートでは、70人中52人が「技術士を今回初めて知った」「名前だけは知っていた」等だったのに対し、70人中68人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は5段階評価でいずれも4.7と学生に高評価であり、初のオンラインでの実施でしたが、まずまず成功できたと考えています。本講演にあたり細川先生を始め大学関係者の皆様には、大変お世話になりました。

ミライ研では、コロナ禍に負けず、今後も技術士の社会的認知度の向上、理科系教育現場の支援に向けた活動を行っていきたいと考えています。